

平成 30 年 6 月 17 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02862

研究課題名(和文) 支配錯綜地域における藩地域論の展開 越後国新発田藩を中心に

研究課題名(英文) A Study on Han (Domains of Daimyo) Region in the Area of Complicatedly Mixed Territories : Mainly in the case of Shibata Han

研究代表者

原 直史 (HARA, Naofumi)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：70270931

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：支配錯綜地域にある新発田藩における史料群(藩地域アーカイブズ)を対象にした調査研究によって明らかになった諸点のうち、注目されるのは以下のような点である。新発田藩は、周辺他領に対する情報収集活動を、意識的、継続的に行っていたが、その担い手は藩士のみならず村役人層にも及んでおり、これ自体が重層的な活動であるということが出来る。時期により藩領の範囲は変化したが、旧領への独自の対応が持続する例も見られた。「藩地域」は、こうした周辺他領への重層的な関係性を含みこんで成立するものであった。

研究成果の概要(英文)：We surveyed the historical materials of the Shibata Han (Regional Archives of Han) in the area of complicatedly mixed territories, and found out the following. The Shibata Han (domain government) consciously and continuously collected the information of neighboring territories, by not only retainers but also the village officers. It can be said that this is a multilayered activity. The range of the domain's territory varied according to the time, but there were cases that some policies to the old territory were lasted. The "Han Region" was established including such multilayered relationships to other neighboring territories.

研究分野：日本近世史

キーワード：藩地域 藩アーカイブズ 支配錯綜地域

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、平成 24～26 年度基盤研究(C)「藩地域アーカイブズの基礎的研究 新発田藩を中心として」の成果に基づき、これを発展させるものとして構想された。

前科研では、良質な藩政史料や地主史料の伝来現存という条件を持つ新発田藩領を対象とし、藩の行政諸記録を中心としながら、蔵書や村・町の文書史料までを含み込む重層的な記録の総体を「藩地域アーカイブズ」として捉え、その構造を明らかにする中で、地域社会のあり方に踏み込むことをめざし、一定の成果を得た。

(2) 一方で前科研を通じ確認されたいくつかの論点のうち、新発田藩領が支配錯綜地帯の中にあることから、藩地域がかかえる諸問題が常に周辺他領との多様な関係の中で形成され展開するという顕著な特徴に、注目が集まった。

こうして本研究は、藩政史料を核にしつつも重層的な「藩地域アーカイブズ」の構造のさらなる把握を進めながら、とりわけ支配錯綜地帯という条件の下で、周辺他領との多様な関係の中で成立・展開する藩地域という観点に立ち、その諸特質を分析していくことで、近世日本の社会を把握する方法の一つとしての、「藩地域論」を提示し鍛え上げていくことを目指して、開始するに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の3点にまとめられる。

(1) 「藩地域アーカイブズ」の構造把握

上述したように、本研究は前研究を引き継ぎ、記録総体の構造把握に基づく視点を重視する。従って「藩地域アーカイブズ」の構造把握は重要な目的となる。前研究ではその基礎的な部分の把握をなしたが、複合的・重層的な「藩地域アーカイブズ」の性質に鑑み、その全体像把握はなお継続的な作業によってめざされていく必要性がある。

(2) 支配錯綜地帯における特徴的な地域像の提示

本研究で重視する観点は、周辺他領との多様な関係の中で展開する地域の諸相という側面である。支配錯綜地帯という特質に根ざした、藩領で完結しない諸問題を中心に分析していくことで、当地域における特徴的な地域像を提示することがめざされる。

(3) 「藩地域」概念の検証・豊富化

本研究では上述したように、藩政史料に限らず村・町史料までも含み込み、また周辺他領との関係も念頭に置く中で、やや独特な形で「藩地域」という概念を提唱しているが、これは未だ荒削りなものである。前記(1)(2)の課題を遂行する中で、この「藩地域」概念

を検証・豊富化し、近世日本の社会を把握する方法の一つという、大きな研究の流れの中で意味のあるものとして鍛え上げていくことは、本研究の究極の課題といえる。

3. 研究の方法

本研究は以下の手順で進められた。

(1) 「藩地域アーカイブズ」調査

前科研において、新発田市立図書館所蔵の藩政史料中主要史料である「月番日記」等の史料本文の電子化・共有を課題として提起しながら、断念した経緯を踏まえ、当研究においては、さらなる情報集約を進めつつ、史料自体の電子化について条件を探った。

一方「藩地域アーカイブズ」の一環となる地主史料・大庄屋史料等について、新発田市立図書館所蔵齋藤家文書、新潟大学図書館所蔵白勢家文書、新潟県立文書館所蔵桂家文書などを柱に、情報集約をすすめた結果、上記齋藤家文書の再整理を中心として作業を進め、情報を蓄積していくこととした。

これらの作業は学生アルバイトを雇用しつつ、研究代表者の原が分担して行った。

(2) 史料分析

(1)で集約された史料について、専門分野に基づく分担に基づいて分析を進めた。藩政史料については分担者の浅倉が主として担当し、原も補助的にこれをすすめた。大庄屋・地主史料については原が主として担当し、浅倉も補助的にこれに携わった。

史料分析は一義的にはアーカイブズの構造把握を念頭に行った。他方、支配錯綜地帯の観点に基づく分析で当然参照されるべき周辺他領の史料については、必要に応じ調査部門にフィードバックされ、調査計画に適宜組み込んでゆくこととした。

なお、主として書物資料に関する助言のため、前科研で研究分担者であった岩本篤志氏を連携研究者として迎え、助言を仰ぐ予定であったが、氏の本務エフォートとの関係で十分なフィードバックが出来なかった。

(3) 総合(「藩地域」論の展開)

研究代表者・研究分担者のみに閉じない公開研究会を複数回開催し、上記(1)(2)の成果を検討し、総合を進めるなかで、「藩地域」概念を検証し豊富化することをめざしまた、成果物として史料集等の刊行を行い、より広く成果を世に問う中で議論を練り上げることを追求した。

4. 研究成果

(1) 主な研究成果

本研究の成果として挙げられるのは、主に以下の諸点である。

「藩地域アーカイブズ」の構造と共有
本研究が目指した「藩地域アーカイブズ」の構造の全体的把握とその電子化等による

共有については、進展はみたものの顕著な成果を得たとはいえない。これは研究期間に新発田市立図書館のリニューアル事業が重なるという事情に由来するものでもあった。

一方で、上記リニューアル事業は、新発田藩政史料を核とする歴史図書館の開館という形で結実することとなった。本科研の成果は同図書館に逐次提供されており、同館における史料整理等に生かされる形で、本科研の成果の共有が実現されることとなった。これは与えられた条件の中で形を変えて成果を追求した結果である。

なお本科研独自には、下記リストにある史料集の刊行を得、支配錯綜地域における藩地域アーカイブズの論点を提示した。

支配錯綜地帯における「藩地域」をめぐる諸論点

本研究の主要な成果は、上記作業の結果を踏まえた史料分析から得られた、以下のような諸論点である。

例えば支配錯綜という問題は、同一時点における空間的な錯綜にとどまらず、上知等による時間的な領域の変化を含みこむものだという事は、前科研の段階で指摘していたことであるが、具体的に上知後も旧領の範囲が意識され続け、さらに預支配等を経て複雑化していく様相をとらえることにより、そうした「時間的錯綜」の具体相の一端を把握することが出来た。

また、新発田藩領海岸部と隣接幕領海岸部との間で、新潟・沼垂間の争論にも影響されつつ、地域海運への関与の形が明瞭に異なってくることを明らかにした成果（後掲論文）などからは、支配領主を異にすることにより生じる特徴的な地域秩序が、具体的には複数の契機が積み重なりながら構成されていくさまを、見通すことが出来た。

災害情報の把握にあたり、新発田領の在村知識人が他領にまたがる情報収集活動に携わり、その一部は藩の公式な活動ともつながっていたことを明らかにした成果（後掲論文など）からは、このような領内の被支配層までをも使った周辺他領にむけた情報収集活動を、藩が意図的・組織的に行っていたことを示すことが出来た。さらにこうした視点は、折々の課題に応じた他領への「聞合」という行為を、藩が藩士のみならず、大庄屋、村役人層を動員しつつ組織的に行っていたことを明らかにすることによって、より明瞭な論点として提示されるに至った。

これらはすなわち、藩が一部領民も含みこむ形での重層的な情報活動を、周辺他領に向けて意図的・恒常的に行っていたということであり、支配錯綜地帯の中の藩地域を理解していくうえで無視しえない論点である。そして藩地域のアーカイブズもまた、こうした重層的な他領へのまなざしを反映した重層的な構造を持つであろう。

(2) 得られた成果の内外における位置づけ
近年、日本近世史研究における地域社会論の中で藩地域に対する一定の注目がみられるが、その際の着目点は主として、藩地域がひとつの世界としての独自性ないし自立性をもつことであった。もとよりその自立性と絶対のものでないことは前提とされているのだが、本研究が明らかにしたような、周辺他領への意図的・恒常的なまなざしが藩地域の運営に常に組み込まれているという論点は、藩地域の独自性・自立性をめぐる議論を豊かにしていくうえで重要になってくるであろう。

またこうした他領へのまなざしは、必ずしも支配錯綜地域の藩にのみみられるものではない、という観点もありうるであろう。さらに他藩の事例と検討を重ねることによって、藩地域論、地域社会論の進展に寄与することが期待される。

(3) 今後の展望

先述したように本研究の成果は新発田市立歴史図書館の活動の中で形を変えて継承されることとなる。また、公開の新発田藩研究会も回を重ねている。本テーマによる科研申請は一段落となったが、今後は上記の場で研究を継続しながら、あらたな展開を図り、他日再度の科研申請につなげることを目指す。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

原直史「新潟町における天保4年庄内沖地震の被害と情報」、『災害・復興と資料』、査読有、10号、2018、9-14頁

横木剛、原直史「史料紹介 東京大学史料編纂所架蔵『鈴木文書』について」、『佐渡・越後文化交流史研究』、査読有、18号、2018、33-40頁

浅倉有子「溝口文書「高田城内御詰之面々御米受取帳」の紹介」、『新潟史学』、査読有、75号、2017、93-107頁

原直史「新発田藩による文政越後三条地震への対応をめぐって」、『災害・復興と資料』、査読有、9号、2017、1-13頁

原直史「史料紹介 文政十三年新潟町騒動と対岸沼垂町」、『佐渡・越後文化交流史研究』、査読有、17号、2017、35-40頁

原直史「文政期新潟・沼垂掛積争論からみる地域海運秩序」、『資料学研究』、査読有、13号、2016、1-21頁

原直史「文政 11 年越後三条地震からみる
広域災害情報の集積」、『災害・復興と資料』、
査読有、8 号、2016、1-8 頁

浅倉有子「『初花肩衝』のゆくえ」、『日本
歴史』、査読有、810 号、2015、67-76 頁

〔学会発表〕(計 8 件)

原直史「新発田藩村役人層の他領聞合をめぐって」第 5 回新発田藩研究会、2018.3.18、
新潟大学

浅倉有子「新発田藩史料からみる光長改易
後の高田」第 5 回新発田藩研究会、2018.3.18、
新潟大学

原直史「支配錯綜地域における災害情報の
集積について 越後三条地震・庄内沖地震を
中心に」前近代歴史地震研究会、
2017.11.3、新潟大学

原直史「文政 12 年中之島町騒動をめぐっ
て」第 4 回新発田藩研究会、2017.3.26、新
潟大学

浅倉有子「新発田藩政史料の全体像につい
て」第 4 回新発田藩研究会、2017.3.26、新
潟大学

原直史「藩領における災害情報の収集につ
いて 1828 年文政越後三条地震を中心に」
前近代歴史地震研究会、2016.11.5、新
潟大学

原直史「早稲田大学図書館所蔵近世新潟関
係史料と文政期新潟町・沼垂町掛積争論」
新潟史学会大会、2016.11.8、新潟大学

原直史「支配領域の錯綜と災害対応 文
政 11 年三条地震を中心に」前近代歴史地
震研究会、2016.11.7、新潟大学

〔図書〕(計 2 件)

原直史(編)『新発田藩村役人他領聞合史
料集(上)』新潟大学人文学部原直史研究室、
2018、79 頁

原直史(編)『新発田藩村役人他領聞合史
料集(下)』新潟大学人文学部原直史研究室、
2018、114 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

原直史(HARA, Naofumi)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：70270931

(2) 研究分担者

浅倉有子(ASAKURA, Yuko)
上越教育大学・学校教育研究科(研究院)・
教授
研究者番号：70167881

(3) 連携研究者

岩本 篤志(IWAMOTO, Atsushi)
立正大学・文学部・講師
研究者番号：80324002

(4) 研究協力者

()